

火星が準大接近②

～ 火星を見よう ～

今月号では、火星の見つけ方、見え方などを紹介します。実際の星空で探してみましよう。

火星の見つけ方

21時ころ、東の空を見てください。赤くて明るい星を見ることが出来ます。秋は明るい目立った星がないので、すぐ見つけることが出来ます。明るさがマイナス2等級、ということでかなり明るく輝いています。しかも赤い色をしているので、非常に目立っています。10月は18時過ぎには昇ってきますので、早い時間から見る事が出来ます。

望遠鏡で見ると・・・

火星は10月6日に地球に最接近します。その後、だんだんと遠ざかっていきますが、11月ころまでは大きな火星を見るチャンスです。ただ、最接近したからといって、ものすごく大きく見える訳ではありません。というのも、火星の大きさが地球の半分くらいしかないからです。とはいっても、普通に比べれば火星の表面を見るいい機会です。家庭用の望遠鏡では、最高倍率が100倍くらいです。その倍率で火星を見ると、右のようにとっても小さくしか見えません。さじアストロパークにある103cmの大型望遠鏡では、いつもはおよそ180倍で天体観察会をおこなっています。大きな反射望遠鏡になると空気のゆらぎが関係してきます。もし、上空の空気がおだやかな状態であれば、高倍率で火星が見えるかもしれません。この時、表面の黒い模様を見ることが出来ます(前回の接近では、砂嵐の影響により、黒い模様は見づらくなっていました)。北極や南極にある極冠と呼ばれる白い部分(これはドライアイスで出来ています)は、今回は小さくて見づらいかもしれません。次回条件が良いのは2033年です。それまではあまり条件はよくありませんので、この機会にぜひ見てください。

火星探査 ～ 今火星があついで？ ～

今年は火星に向けて探査機が次々と打ち上げられました。アメリカは生命の痕跡を発見するための探査機「パーセヴェランス」、UAE(アラブ首長国連合)は大気を観測する周回機「HOPE」を日本のH2Aロケットで、中国は「天問1号」を打ち上げました。今年打ち上げ予定だった欧州とロシアの火星探査機は2年後の打ち上げになりました。現在、探査機「キュリオシティ」が探査を続け、最新の画像などを送ってきています。人を火星に送る計画もあり、今火星が注目されています。新しい探査機は2021年に到着する予定で、これまでになかった情報をもたらすかもしれませんね。

